

【質疑応答】

《上下高等学校、湯来南高等学校及び西城紫水高等学校の今後の在り方について》

R C C まず、県立高校の統廃合についてお伺いします。今回、統廃合が一旦見送られる形となったと思うんですけども、その理由についてもう少し具体的にお話していただくことはできますでしょうか。

教育長 はい。この判断でございますが、先ほどもちょっと御説明申し上げましたけれども、3校、上下高等学校と湯来南高等学校、それから西城紫水高等学校につきましては、これまでの学校活性化に向けた取組状況、それから学校活性化地域協議会の御意見、こういったものを踏まえまして、一定の新入学生徒数の確保を期待できるのではないかと判断いたしまして、令和6年度入学生に係る生徒募集を実施することといたしました。教育委員会といたしましては、今回対応方針を決定した3校におきまして、学校のさらなる活性化が図られ、来年度1人でも多くの新入学生徒数を確保できるよう、各学校の取組に対しまして引き続き支援を行っていきたいと考えております。

R C C ありがとうございます。一点確認で、これ来年度の入学者数が27人を下回った場合は再来年度、生徒の募集を停止するという認識でよろしかったでしょうか。

教育長 そのことにつきましても、引き続き検討を行うということで、27名というのが、どこから出てきたかというのが分かりませんが、現在、令和7年度以降のですね、学校の在り方につきまして、検討をしております。これと、今の3校と同じく、どうするかということにつきましても、来年度以降、また決定する形になるかと思えます。

読売新聞 先ほど教育長説明のあった、今後の公立高等学校の在り方に係る基本計画、これの策定時期の目安ってものを伺いたいのと、あと、この計画が適用されるのは、令和7年度入試というふうな理解でいいのかっていうところ、最後に、この基本計画の中に、いわゆる、統廃合の何らかのルールが入るという認識で良かったでしょうか。

教育長 はい。現在のもので、今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画でございますけれども、皆様御存知のように今年度末〔までに策定予定〕というふうになっております。平成26年2月にこれは策定したものでございまして、現在次期計画の、今年度中の策定に向けて、各方面の様々な御意見・御要望をいただきながら検討を行っているところでございます。現在、いつ頃この新しい計画を出しますってことがまだちょっと申し上げられない状況ではございますけれども、今後議会の集中審議ですとか、パブリックコメントなどを通して、議会や県民の皆様からの御意見をお伺いしたいと考えておまして、次期計画の内容について、適切な時期にお示しできるよう、検討していきたいと思っております。これが適用されるのが、どういう基準になるかもありますけれども、来年度以降の適用という形になろうかと思えます。

読売新聞 そこを踏まえてなんですけど、ここの中に今、例えば2年連続80人未満で、検討対象とか、そういった書きぶりがされているんですけども、その部分で新しい何らかのルールが入ってくるっていう理解でいいですかね。統廃合の検討について。

教育長 はい。そうですね、いずれにしましても、子供の数が減ってくるということは明らかでございますので、どのような形の案にしていくかということ今検討しております。今のよう形で、80人とかそういう数についても、今検討しておりますので、どんな形になるかっていうのは、これまたちょっとパブリックコメント等々見ながら決めていくこととございまして、何かお示しできるということはありませんけれども、それをもとに、来年度から適用されるという形になります。

中国新聞 私も3校の在り方について伺います。先ほどのお答えの中で、3校について、今後一定の確保が期待できるというお話があったと思うんですけど、こ

の点もう少し詳しく、今後さらに1年生の数が令和4年度に比べて、5年度のほうが、3校とも増えているといった状況だと思うんですけども、今後この部分が増えていくというふうに見ていらっしゃるということでしょうか。

教育長

この部分については、ちょっと予想することが出来ませんが、仰るように、現在の2年生よりも1年生の方が増えているということが、資料2ページ目3ページ目4ページ目を見ていただくと、具体的にお示しできていると思います。それだけ学校、あるいは地域の方々が努力をされて、こういった数字が出てきているというふうに思っておりますので、今後はもちろんこれは分かりませんが、活性化の取組について、私どもといたしましても、さらに支援をしていきたいなというふうに思っております。

中国新聞

次期の在り方基本計画の策定の流れに関連して、例えば素案をですね、県民なり県議会なりに示す時期について、今のところ、お聞きできる情報はありますでしょうか。

沖本学校経営戦略推進課長

すいません、教育長が申しましたように、現在検討中ということですので、いずれ素案をお示しして、また御意見を頂きながらという形になろうかと思いますが、その時期についても現時点では申し上げることができないという状況でございます。

中国新聞

その計画の中に、特に1学年1学級規模の、小規模校の統廃合に関する基準が入るならという前提にはなりますが、そういう基準を策定していく上で、教育長として重要だと考えるポイントについて、考えをお聞きできますでしょうか。

教育長

はい。これはもういろんな方々の御意見を頂戴しながら決めていくことですので、何とも申し上げられませんけれども、ですが、残念ながらもう子供の数は減ってきているという中で、こういった形のものが、一番子供たちのためになるか、それから、もちろん地域ということもあるかと思いますが、やはり子供のためになるかっていうようなことが〔重要だと考えております〕。活力ある学校経営ということがありませんと、学校ということですから。やっぱり、学び舎ってということと、学校の「校」って木が交わると書きますけど、木が交わらない限り、そこの中で社会性だとかですね、育むわけにはいきませんので、その数も含めて、どういう形が一番、基準としてお示しするのがいいのか、これはもう本当に悩ましいことではありますけれども、私どもも、全部残したいっていう気持ちはありますけれども、とはいえ、人口が減ってくるわけですので、その部分の哲学の部分と、それから現状をどうしていくかっていうふうなところになってくるかと思っております。

中国新聞

繰り返し関連でお聞きして申し訳ないんですけど、今、少し、触れられましたけれども、特に中山間地域の高校っていうと、地域、存在そのものが地域の活性化の中心というか、そういった役割もある中で、そういった観点をこの在り方計画に、どの程度組み込んでいくか、その観点をどの程度踏まえて検討していくか、どのようにお考えでしょうか。

教育長

お示ししている在り方の資料にもありますように、地元からやっぱり望まれた、地元の生徒たちが行きたいっていうふうにならないと、なかなか存続としては難しいと思われまして、その部分の学校経営・学校運営をどうしていくかということになろうかと思っております。

《令和6年度県立高等学校の入学定員の策定について》

中国新聞

わかりました。あとですね、入学定員について、先ほどの教育委員会会議でも出ておりましたが、5学級が全日制本校で減少する形になりますが、その判断の理由についてお聞きできますでしょうか。

教育長

こちらについては人口に合わせた形で決めております。今後の推移といたしましては、皆様の方にもお示ししているかと思いますが、中学校3年生の人数でそれぞれ決めておまして、令和7年度までは増減を繰り返して現行とほ

ぼ同じ、同水準を維持していく見込みとなっております。今の中学校1年生ぐら
いまではですね。ただし、その後、令和8年度、これは今の小学校6年生です
ね、からは、毎年度200人から400人程度減少していくということが、見込まれ
ておまして、令和13年度の中学校3年生、これは今の小学校1年生でござい
ますけれども、今年度は25,234人いましたけれども、これが22,409人になる
ということで、2,800人も減っていくということが出生数等で出ております。こ
の、今お示しているように、ちょっと年度によってももちろん増減はございま
すけれども、こういった中長期的に生徒数が大幅に減少していくという現実に対
して、すべて学級減で対応するようになりますと、どうしても小規模化した学校を多く
作ることに繋がってしまうというふうに考えております。先ほどの御質問にも繋
がってまいりますけれども、活力ある教育活動を実施していくためには、ある一
定以上の一定程度の規模を保っていくことが必要かと思っております、今後大
きく生徒数が減少していく中にある場合は、今の既存の学校の学級減のみならず、
中長期的な視点に立った形で、様々な形で考えていかなければいけないのかな
というふうに思っております。

《(株)ホーユーの寄宿舎給食調理業務の停止について》

N H K

県立高校の寄宿舎の入寮生の食事提供のことでお尋ねいたします。株式会社
ホーユーとですね、食事提供業者の契約をしていた高校6校で今月に入って、業
者からの提供がストップしていると承知しておりますけれども、このうちの4校
ではですね、去年3月に三次高校を通じて食事提供業者の一般競争入札があっ
て、ホーユーが落札しているということで、入札に参加した他の2社よりも、入
札価格が低いものとなっております、設計金額の70%を下回って、県の要領に
従ってですね、調査を行ったということなんですけれども、この点について、教
育長はこのホーユーによる落札であったりとか、低価格の落札に伴うその後の調
査内容について、まず、いつどのような報告を、どこから受けられたか教えてい
ただけますでしょうか。

教育長

まずちょっと全体的な受け止めからお話をさせていただきたいと思いま
す。今回事業者による業務が停止されましたけれども、県立学校の寄宿舎に入っ
ている生徒に対して給食を提供するものでございまして、生徒にですね、直接的に大
きな影響を生じているというふうにとらえておまして、事前の連絡もなく、停
止されてしまったことにつきましては誠に遺憾だというふうに思っております。
その上で、今の御質問でございますけれども、入札でやりますので、これにつき
ましては、例えば、昨年度まで、ホーユーさんでやってらっしゃったところも、
他校になりますけれども、入札によってホーユーさんではないところに決まっ
たりしております。これはもう、そういう意味では入札で決まるものでございま
すので、金額が低いところというふうなことで、こういう制度になっております
ので、これについてはホーユーさんに決まるとか他に決まるというようなこと
については、すべて100%全部の学校を私が承知しているわけではございませ
んけれども、今回のこともございまして、この4校については、ホーユーさんに決
まったというふうなことですね。あつ、5校ですねごめんなさい。

沖本学校経営戦略推進課長

補足ですけれども、低入札制度、仰るように、その形で三次高校が行ったと
いうことでございます。これは業務の履行に必要な経費のうちで人件費の割合
が、設計金額の過半を占めるような業務、今回ですと調理員さんが調理をして
食事を提供いただくという内容でございます。こういった場合に低入札価格調
査制度を必要に応じて適用する、今回適用したということでございます。実際
に、その確認ということでございますけれども、主に先ほど申し上げたように
人件費の割合が過半でございますので、業務の履行において必要になる労働者
の賃金でございますとか社会保険料等、相当額が適正に計上されているかどう
かといったところを、契約者である学校において、確認をしたということでご
ざいます。

N H K

ありがとうございます。もう1点お伺いします。ホーユーさんと同業の事業者さんからは、公的施設であったり、例えば公立学校もそうだと思うんですけども、値上げの交渉が困難で長い時間を要するというのもあって、価格を変えることがなかなか難しいという声が上がっております。教育委員会さんといましては、この現状について、どのように受け止めていらっしゃるかということと、何か今後の対策があれば伺えますでしょうか。

教育長

これは、私たち消費者として、食材費が高騰しているというのは、私もスーパーに行って買い物するとですね、やっぱり高くなったなというふうに感じているところでございます。こちらにつきましては、学校給食等負担軽減事業として、これまでも食材費の値上げ相当額を補助する制度を作っていました。これは国の臨時交付金をですね活用しまして、対象期間は令和5年4月1日から令和5年9月30日というふうにさせていただいておりますけれども。申請手続きを、食材費においてはさせていただいたかたかたかと思っております。担当課からも御説明させていただいておりますけれども、いわゆる公費で、今、入札というふうなことで言っているものとしては業務委託料、人件費とかですね、それと調理器具とか、厨房用の機器とか、それから消耗部品とか、衛生害虫駆除、それから施設維持管理費、こういうものが今のその入札というふうな形になるんですね。これ以外に、寮生がいわゆる食費として渡したりしているものとして、食材費と、それから光熱費とか水についても補助を出しております。食器とかですねあと細かいところでいうと漂白しなきゃいけないとか、食器洗い機ですね、洗剤のお金とかこういったものは寮生が負担をしております。各学校で言うと例えば朝食を幾ら、昼食幾ら、夕食幾らというところもあれば、1日2食で朝食と夕食だけを出して全部で幾らですよというふうなところもあります。このやり方としては、上げる部分、こちらが負担しますよということで、ホーユーさん以外の会社については、〔3校合計で〕約450万、それぞれ申請を出されてやってらっしゃるんですけど、私どもも何度も、実はホーユーさんにどうですかというふうに申し上げたんですけども、ホーユーさんとしては、現在の食単価で工夫しながら、やっていきますので、補助申請を行わないと、いうふうにちょっと言われてしまいましたので、なかなかそれも補助できてないんですね。それはそんなに難しい手続きだったのかって言われると、実はこれも簡素化しております。ほぼ学校がやる仕組みになっておりまして、食費を、保護者の方に増額しますよと言ってその分増額した分も今回あてがいますよというふうにしてくださいれば、〔業者からの〕保護者や学校への通知文と、何食必要かっていうこの申請書だけで、大丈夫なんですけど、それもちょっとやっていただけなかったことで、なるべく手は尽くしたというふうに思っておりますけれども、なかなかちょっと御理解いただけなかったのかなというふうなことは残念であります。

小野高校教育指導課長

補足ですけども、先ほどの説明の中にありました、宿舍の費用の上昇分の支援ですが、対象については電気・ガス・重油などというふうになっておりますので、水は対象外となっております。

読売新聞

そういった状況の中で、現在も6校の寮で、現場の先生たちが朝食を買われたり、いろいろ工夫されながらされているということなんですけども、契約主体は確かに三次高校、西条農業高校ではあると思うんですが、県教育委員会として、どういう形でサポートといいますか、事業者と一緒に探していくとか、こちらが主体となって探すとか、そこの部分の今後の対応みたいなのは教育長としてはどのようにお考えでしょうか。

教育長

もうそれはすぐにですね、うちの学経〔学校経営戦略推進課〕の方で探し始めております。もうもちろん、as soon as possibleですね。とにかく早くに、まずもってこの業者を解除しなきゃいけないので、これについては令和5年9月6日付けで契約の解除を行ったところでありまして、もう前後してですね、すぐに新しいところを探しましょうということで、うちの方で探しておりますが、影響が多すぎて、学校だけではなくていろんなところでホーユーさん、手

広くやってらっしゃったので、やっぱりなかなか受けてくださる業者さんも、検討しますっていうことで、なかなか難しい状況ではありますが、とにかく早く、複数の事業者に対して私どもも、学校もやっていただいていますけれども、教育委員会としても、引き続きやっていただけないかっていうことで照会を行ってですね、事業者の方が分かりましたっていうふうに言っていただいたところから、できる限り速やかに業務を開始していただいて、その事業者と随契〔随意契約〕で行う予定としております。ただ、ずっと随契〔随意契約〕というわけにはいきませんので、令和6年度以降については一般競争入札によってやりますけれども、とにかく1日でも早く、子供たちに温かい食事が、お弁当ではなくてですね、食べていただけるようにというふうに思っております。そんな中、いろんな方々の御協力を得て、お弁当ですとかあるいは温かい食事を御協力いただいているということについて、心から感謝したいと思っております。

読売新聞

そこを踏まえてもう1点だけいいでしょうか。先ほど言われたように、まさに県内だけではなくて県外にも影響が、学校だけではなくて警察学校等々広がっているっていうのは実際そうだと思うんですけども、県教委としても、やっぱりその影響で、例えば、県外の業者にも問合せたり、ないしはその問合せした業者も、他からどうも受けているみたいで、スムーズにいかないとかどんな感じですか。

沖本学校経営戦略推進課長

基本的に県内の、また、加えるならば、県の入札の資格者名簿に登録されている業者さんをまず優先して、お声掛けをしているというようなことで、いつから対応していただけるかということ、情報収集を行っているところでございます。そうした情報を学校と共有しながらですね、最終的には学校に契約してもらうということになりますけれども、そういったところで、緊密に学校とも連携しながら、我々業者ともいろいろ連携させていただきながら鋭意探しています。全国的な問題だから、今見つからないという状況までには至っていないかなっていう感触でございます。

読売新聞

もう1点だけ。今回出た契約負担は3つ、西条農業高校と油木と県北4校っていうふうな認識をしているんですけど、今後随意契約を結ぶ際は、例えばそういう学校区分じゃなくて、三次だったらできますとか、油木だったらできるみたいな形で柔軟にやっていくのかっていうところを伺いたいです。

沖本学校経営戦略推進課長

今回の場合については、とにかく子供たちに、何よりも早く食事を再開させるということそれが重要だと考えておまして、その契約主体、各学校別に契約するのか、もうそこは柔軟にですね、対応したいと。それも含めて、今、調整・検討中です。

教育長

とにかくできるだけ早く事業者を見つけて、様々な契約方法も含めて検討して、とにかく1日でも早くというふうに思っております。

《今後の食堂等施設の在り方について》

T S S

ちょっと先ほどの話になってしまうんですけども、今、学校の食堂自体どんどん減っていったり、昔はやっていただけ今はやっていないというところもあったり、そして子供もどんどん減っていくであろうと。今後のそういった施設の在り方、方向性についてお考えがありましたら伺いたいです。

教育長

食というのはすごく大切なものですので、できる限り子供たちにとって、おうちから持ってくるお弁当、それから、何か買う、ちょっとしたパンとかですね、食べ盛りの子供なので、そこについてはなるべく今の形が現状維持できればと思っておりますけど、様々、これについても、食費が高騰しているとかあるいは資源とか物価高とかいろんなことがありますので、状況を見ていながら、指針は出せないかもしれませんが、学校によるとOBとか、OGの方々あるいは同窓会の方が運営を赤字覚悟でやっていただいているところもあれば、そうでな

いところもあったりしますので、現状を見ていきながらできればなというふうに思っております。